

日本電子(株)中間決算説明会

JEOL



2006年11月27日

Contents

2007年3月期中間決算の概要と通期の業績予想

取締役兼副社長執行役員 大塚 東

2006年度の上期総括と重点施策の実施状況

代表取締役社長兼COO 原田 嘉晏

司会進行 執行役員経営戦略室長 福山 幸一

2007年3月期中間決算概要と 通期の業績予想

取締役兼副社長執行役員 大塚 東

2007年3月期 連結上期実績 および通期業績予想

(単位:百万円)

	05FY上期		06FY上期		05FY		06FY(予想)	
	金額	売上高比 (%)	金額	売上高比 (%)	金額	売上高比 (%)	金額	売上高比 (%)
売上高	39,400	100.0%	46,905	100.0%	93,291	100.0	100,000	100.0%
営業利益	549	-1.4%	2,194	4.7%	2,012	2.2	5,000	5.0%
経常利益	484	-1.2%	2,252	4.8%	1,913	2.1	5,000	5.0%
当期純利益	496	-1.3%	1,189	2.5%	1,288	1.4	2,500	2.5%

売上高・営業利益・経常利益・中間純利益とも、2000年度より公表を開始した中間連結決算としては過去最高

2007年3月期 連結上期実績 および通期業績予想

(単位:百万円)

	05FY上期		06FY上期		05FY		06FY(予想)	
	金額	売上高比 (%)	金額	売上高比 (%)	金額	売上高比 (%)	金額	売上高比 (%)
設備投資額	949	2.4%	904	1.9%	3,192	3.4	2,400	2.4%
減価償却費	1,139	2.9%	1,308	2.8%	2,583	2.8	2,600	2.6%
研究開発費	2,360	6.0%	2,917	6.2%	5,223	5.6	5,300	5.3%

2006年度上期実績(対前年同期比)

(単位:百万円)

	05FY上期	06FY上期	対前年 増減
売上総利益	12,380	15,932	+ 3,551
売上高増加による改善			+ 2,200
原価率(%)の改善	68.6	66.0	+ 850
為替レート(円)	109.06	115.61	+ 500
販売費・一般管理費の増加	12,929	13,737	+ 808
販売費及び一般管理費	10,569	10,820	+ 251
研究開発費	2,360	2,917	+ 557
営業利益	549	2,194	+ 2,743
営業外損益	64	59	- 5
経常利益	484	2,252	+ 2,737

原価率は
2.6ポイント改善

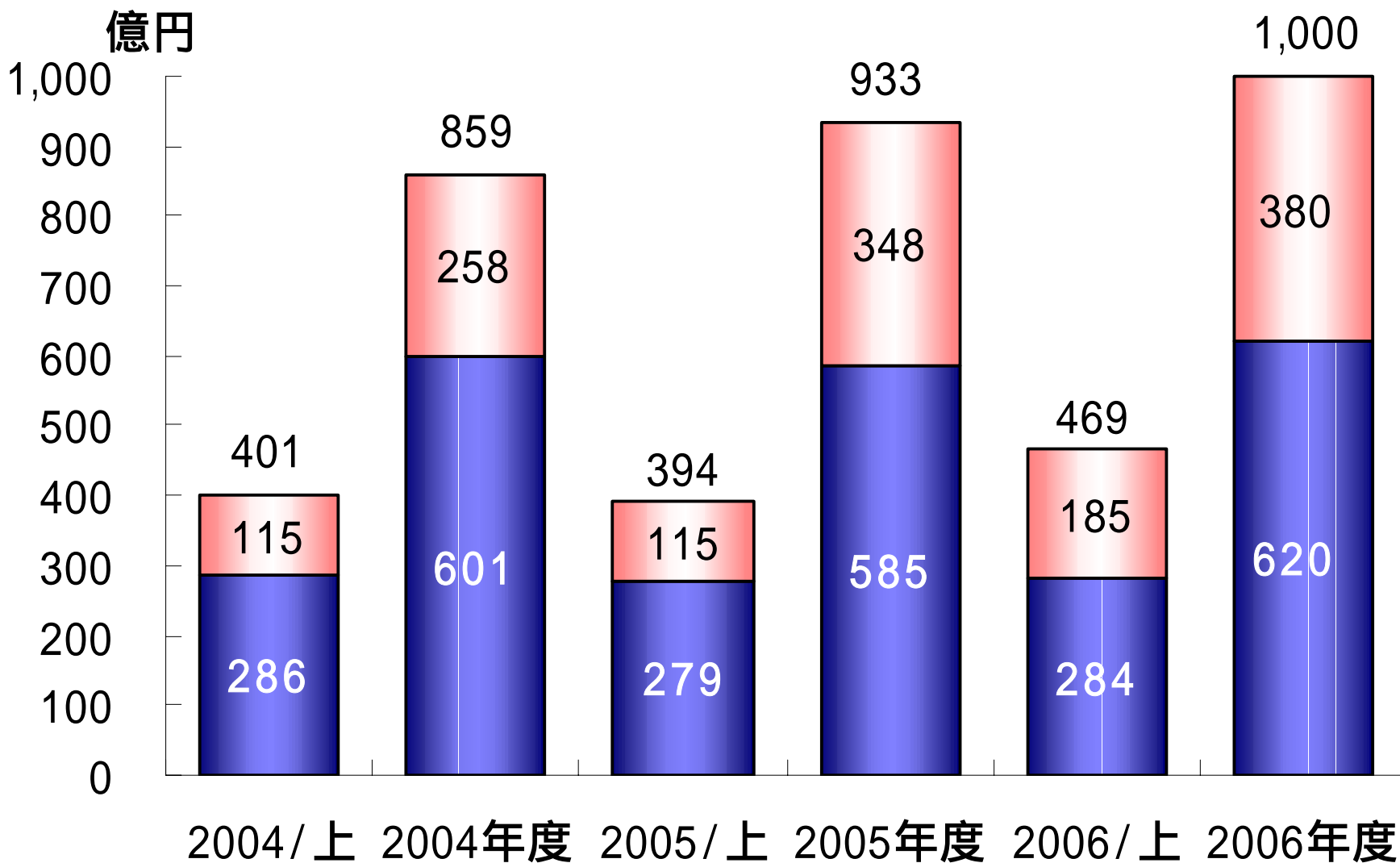
売上高研究
開発費率は6.2%

事業の種類別売上高(連結)

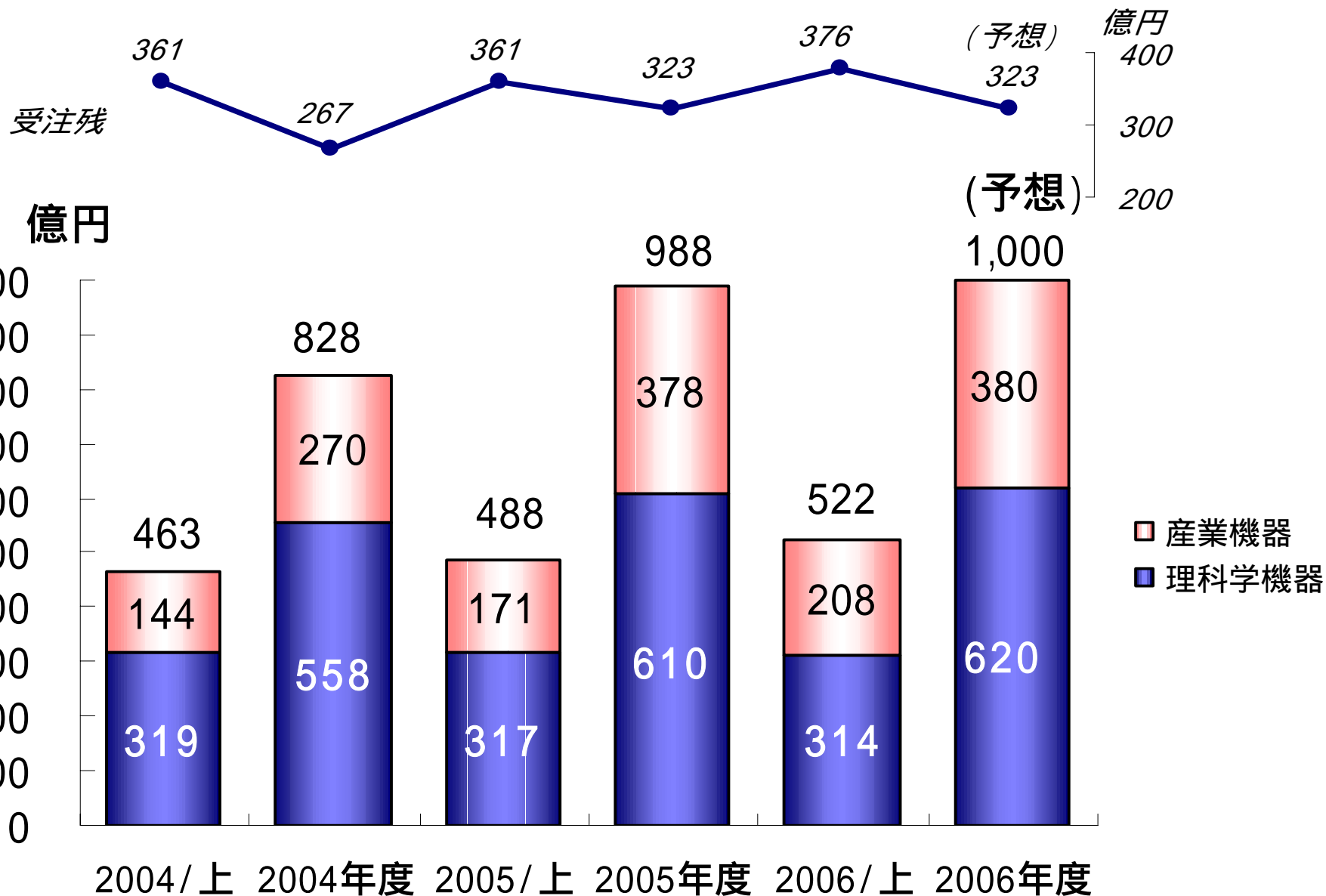
- 産業機器
- 理科学機器

(予想)

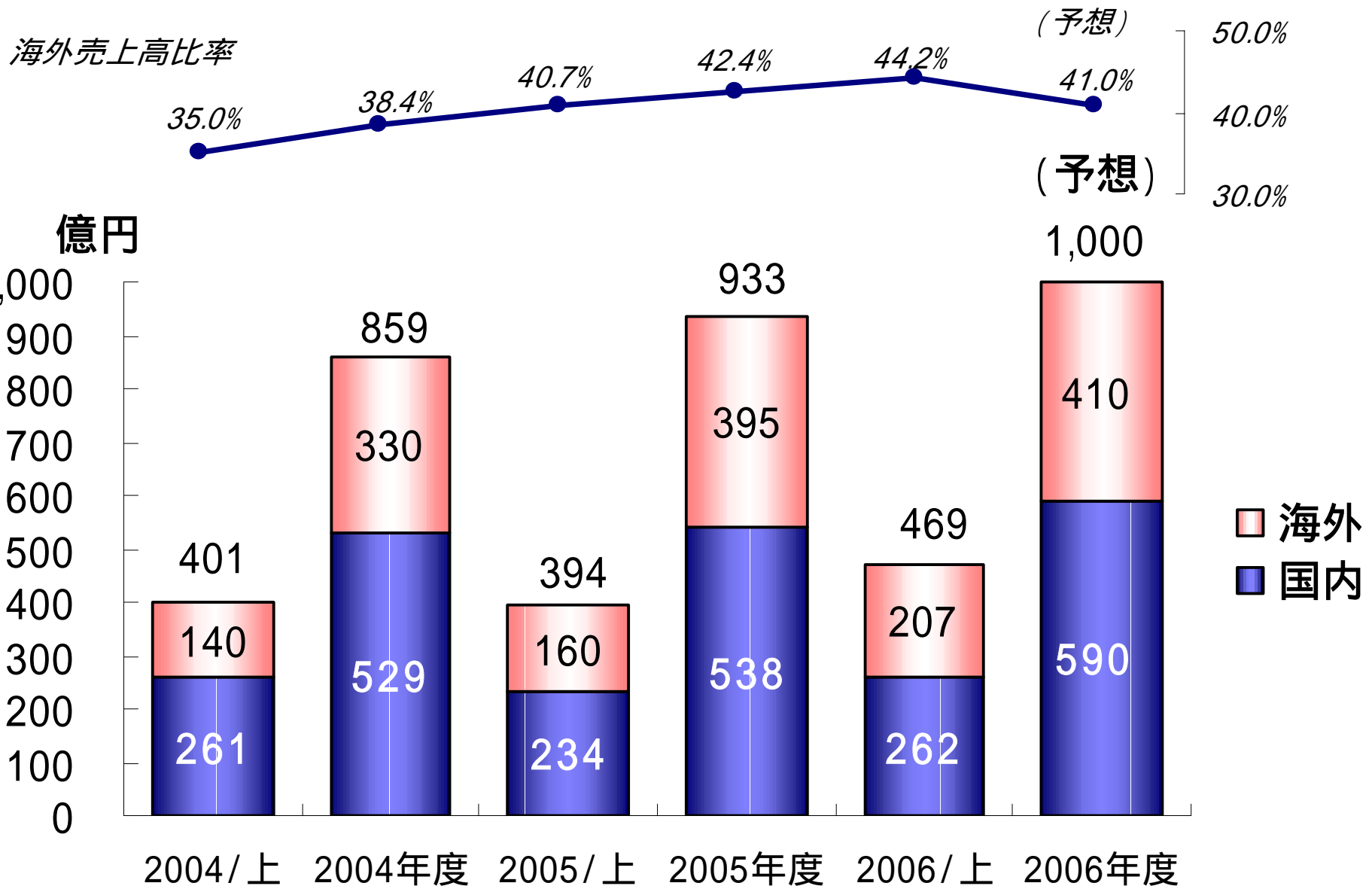
1,000



事業の種類別受注高と受注残(連結)

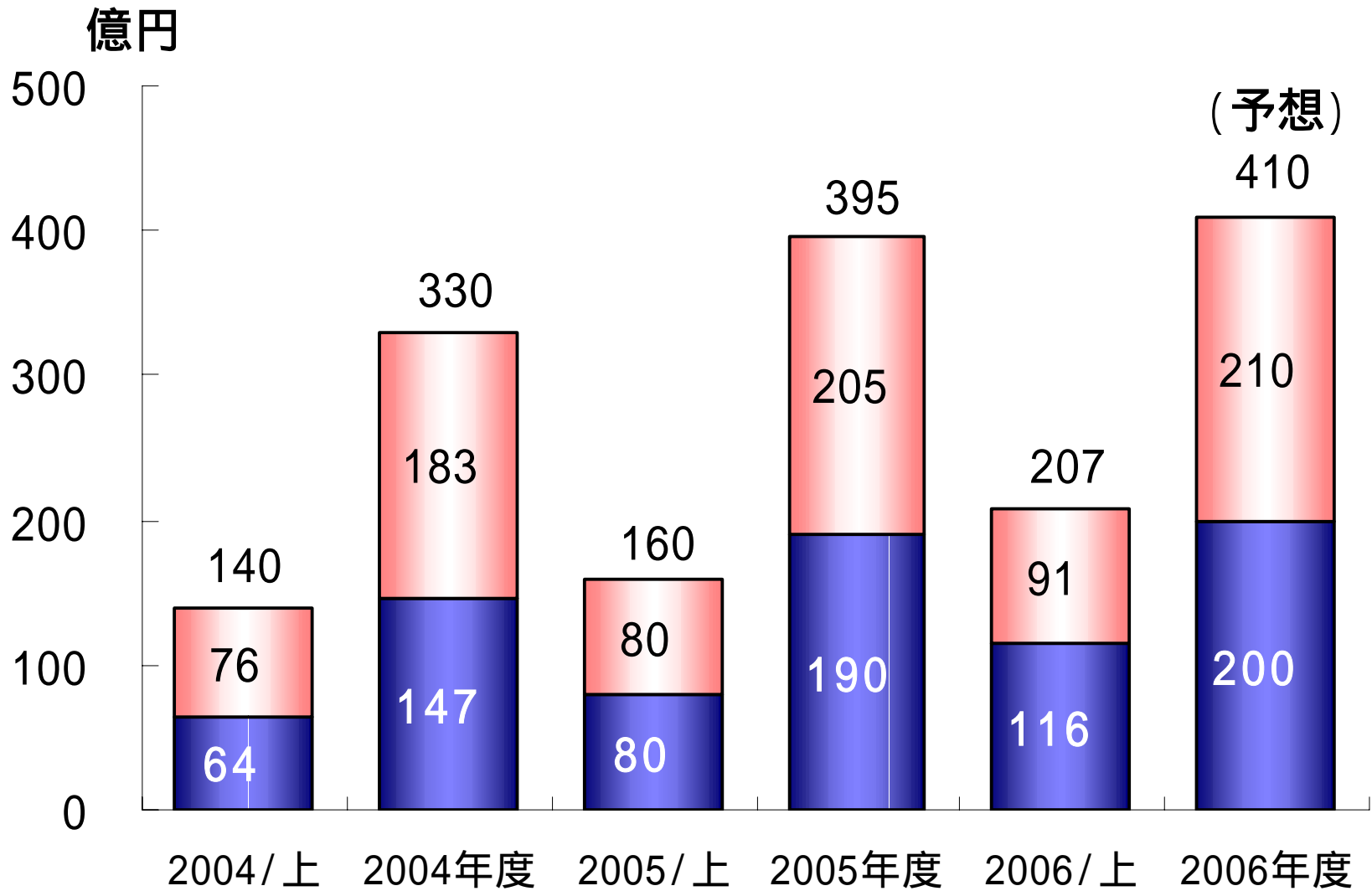


海外売上高と海外売上高比率(連結)

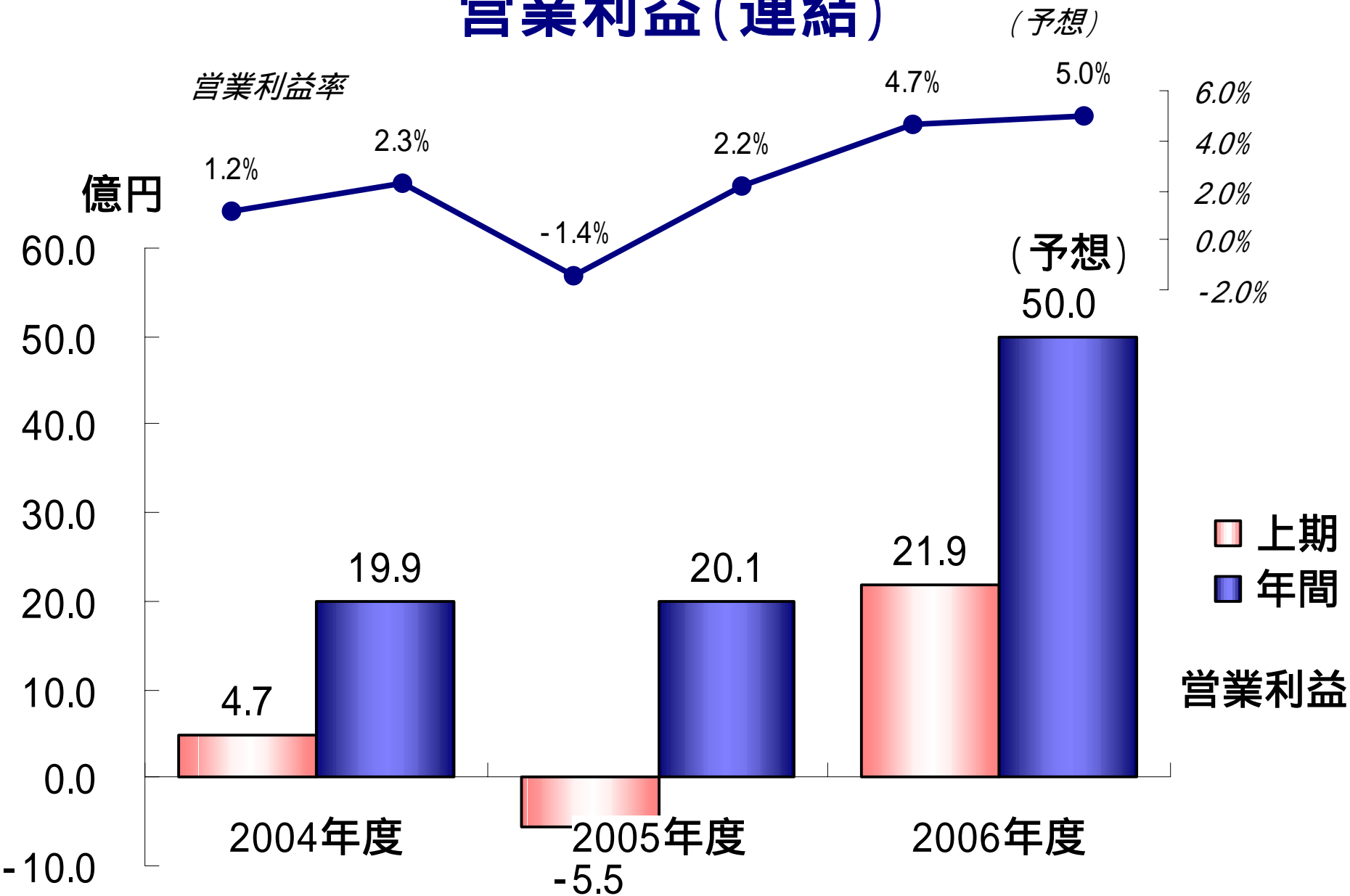


海外売上高(連結)

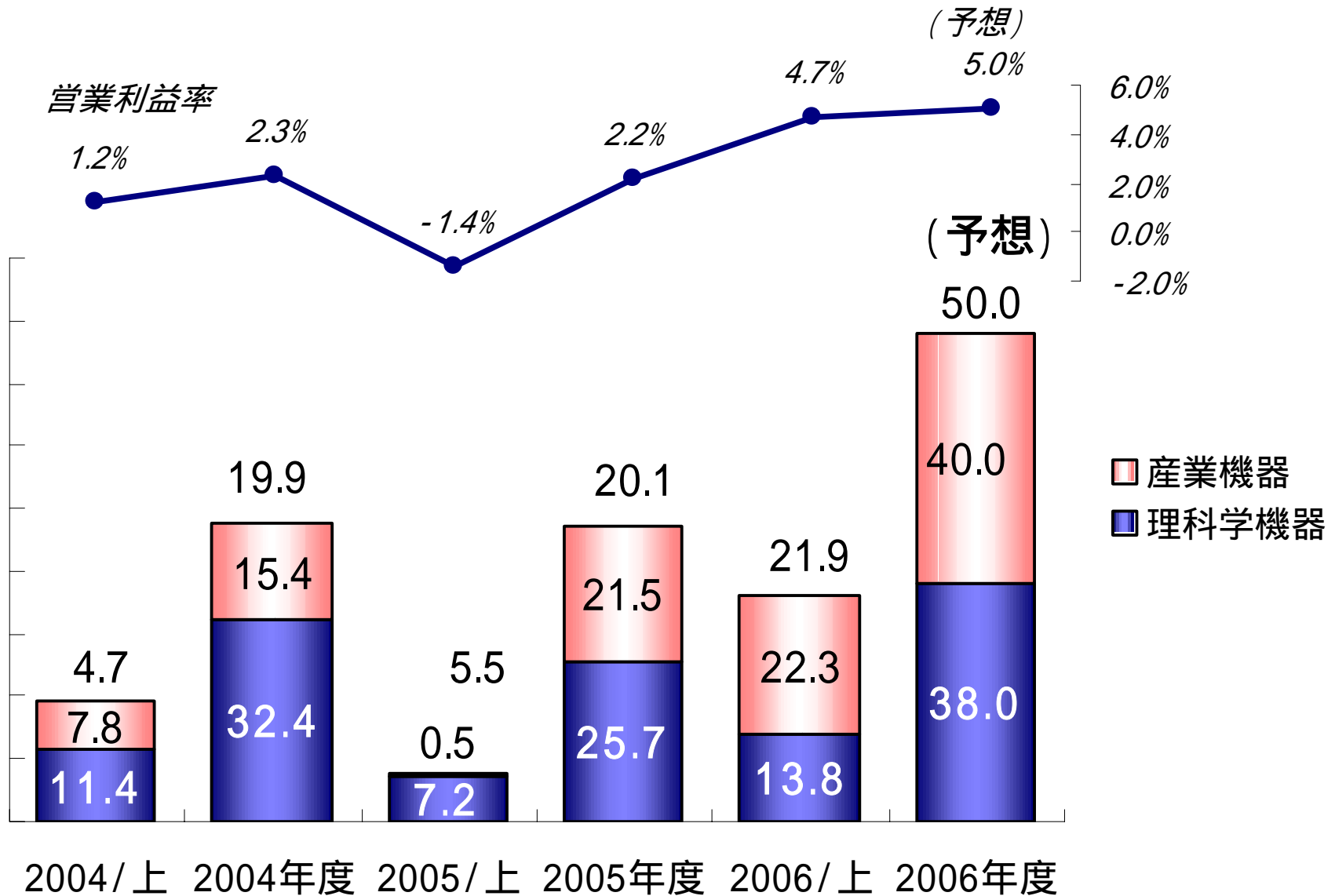
- 欧州・アジア他
- 北米・中南米



営業利益(連結)

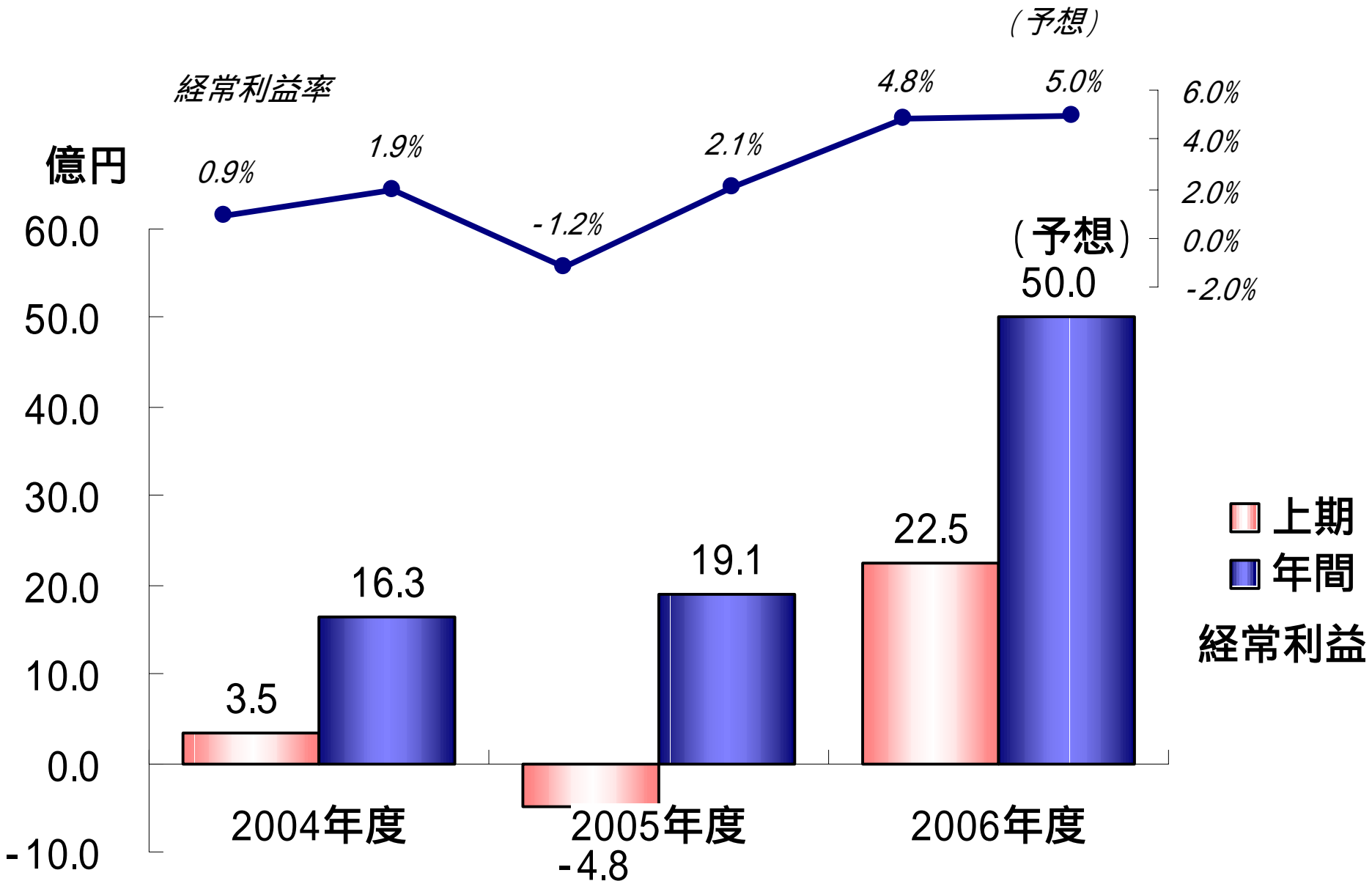


事業の種類別営業利益(連結)

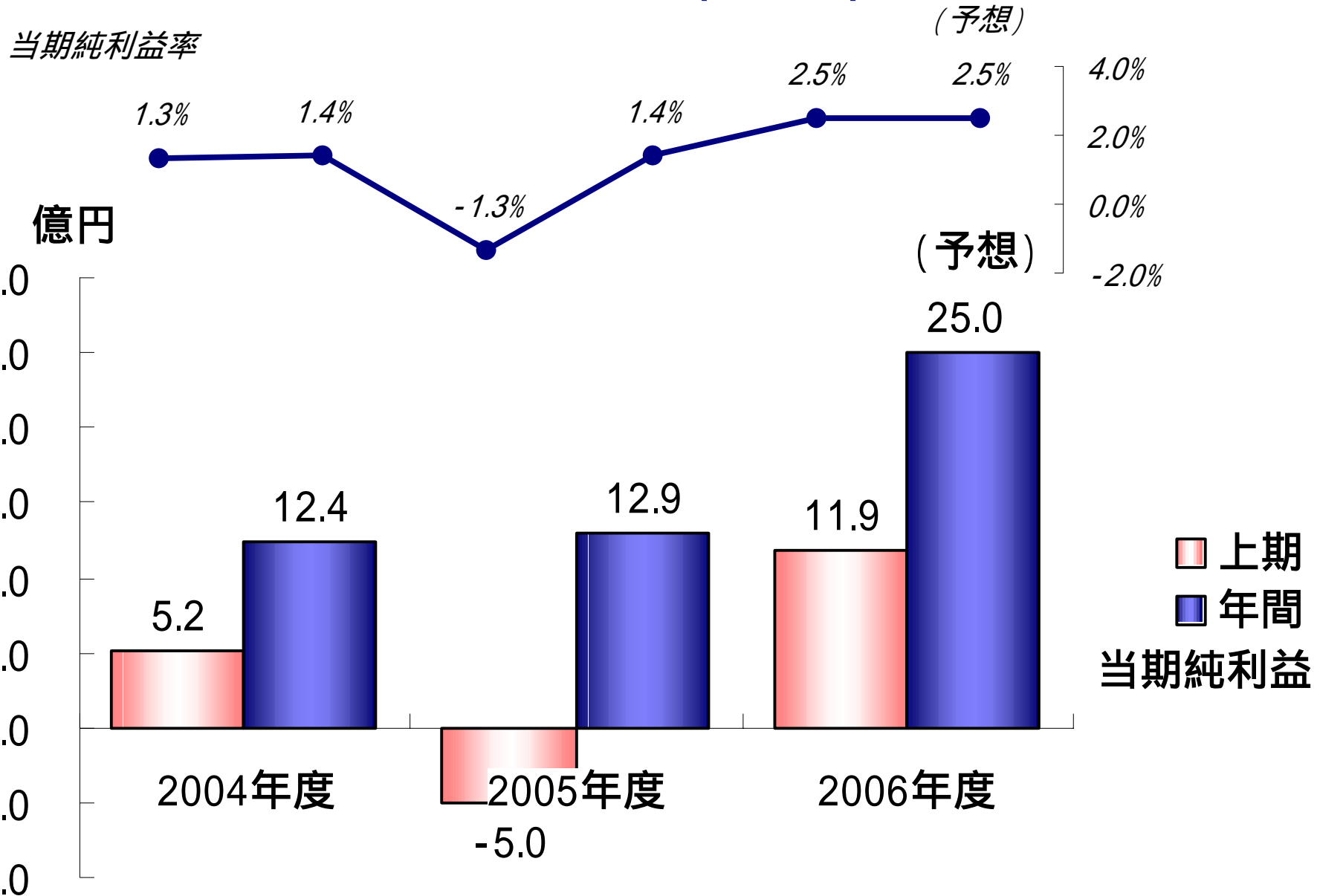


* 合計には消去又は全社分が含まれております。

經常利益(連結)

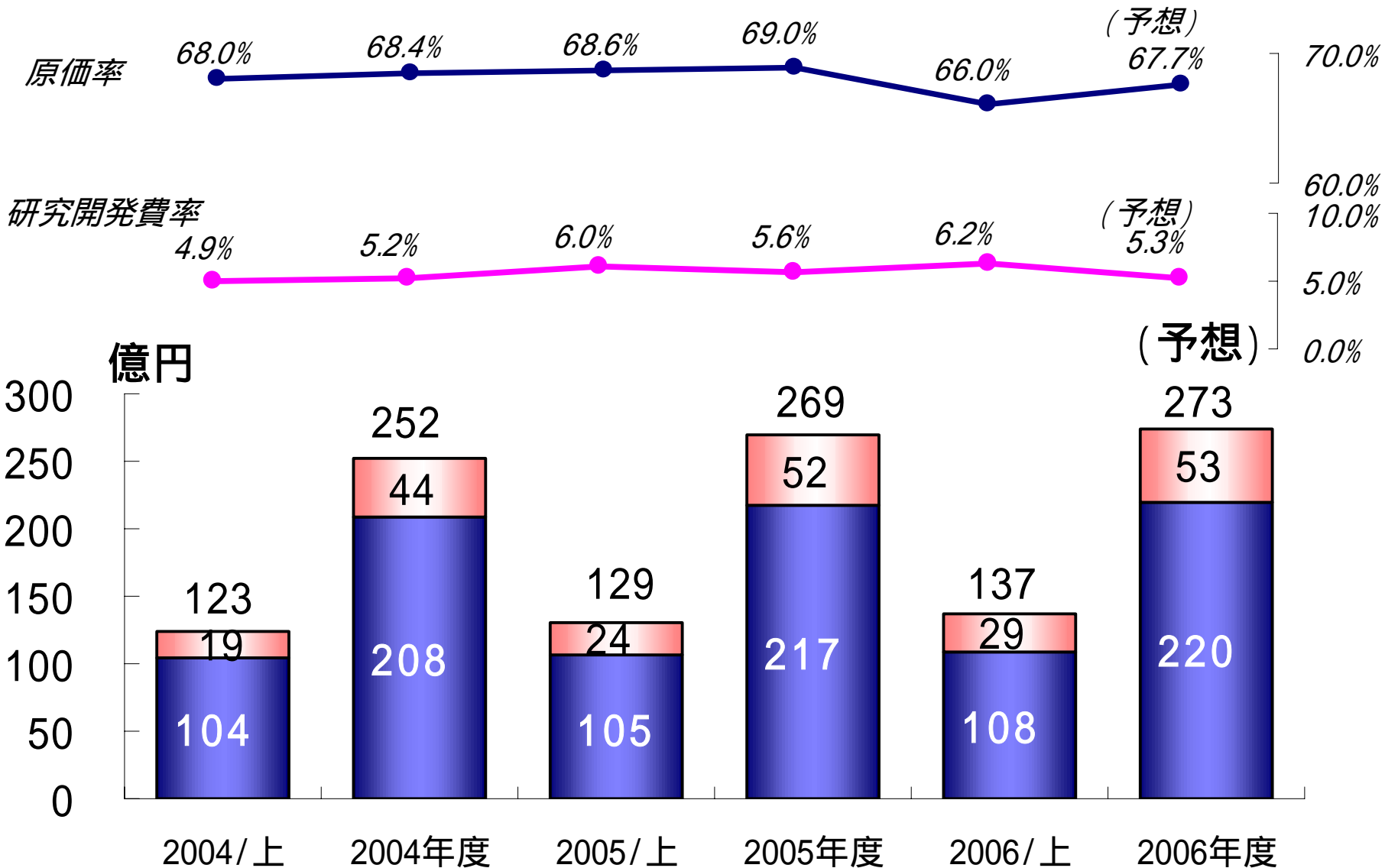


当期純利益(連結)

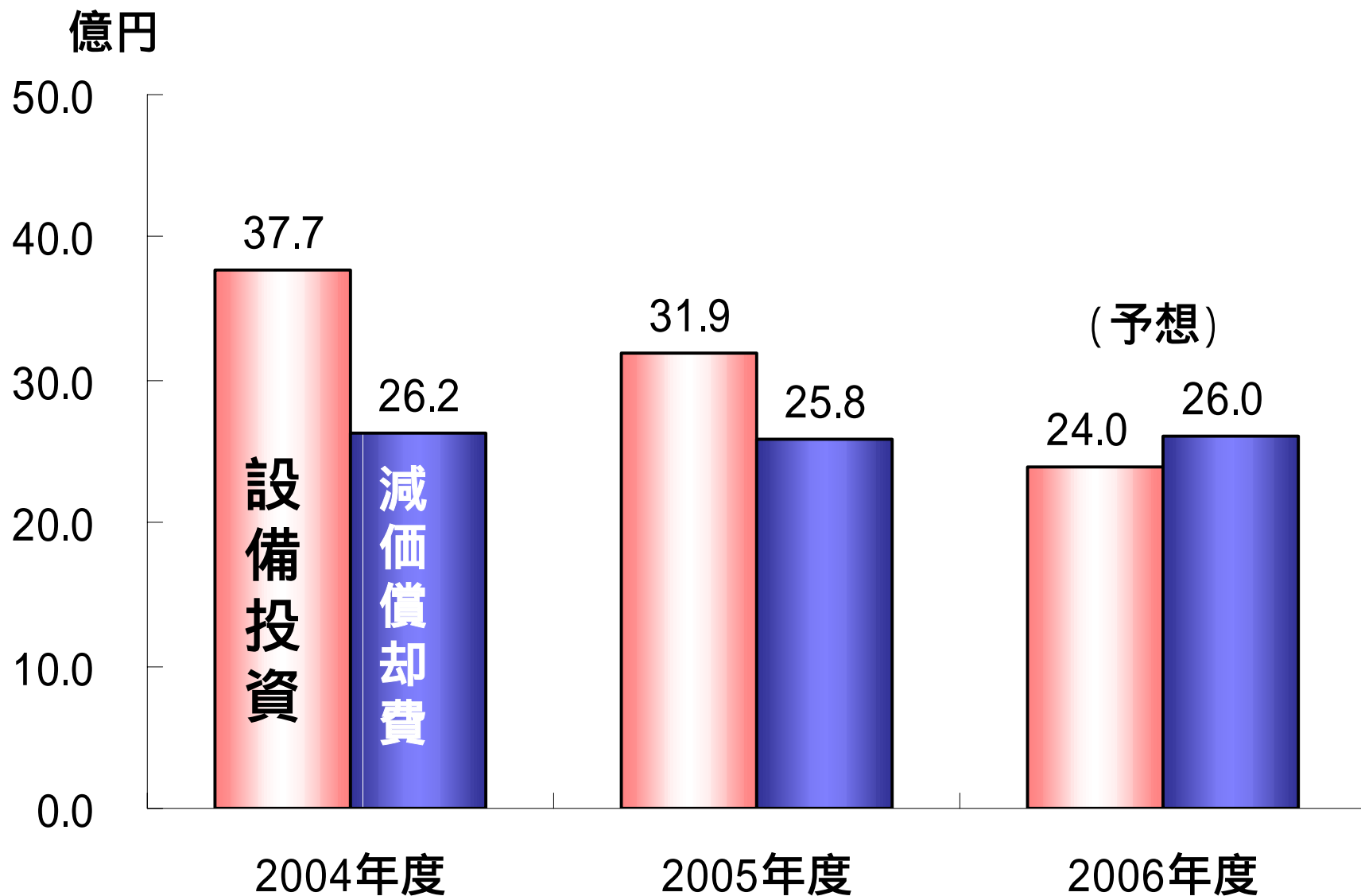


原価率と研究開発費率(連結)

■ 研究開発費
■ 販管費



設備投資と減価償却費(連結)



貸借対照表(連結)

単位: 億円

	2005年9月	2006年3月	2006年9月	2007年3月 (予想)
流動資産	710	787	810	840
内売上債権	203	296	262	336
内棚卸資産	384	334	369	320
固定資産	233	252	250	260
総資産	943	1,039	1,060	1,100
流動負債	457	503	506	540
固定負債	211	236	243	240
純資産	275	298	311	320
自己資本比率	29.1%	28.6%	29.1%	29.1%

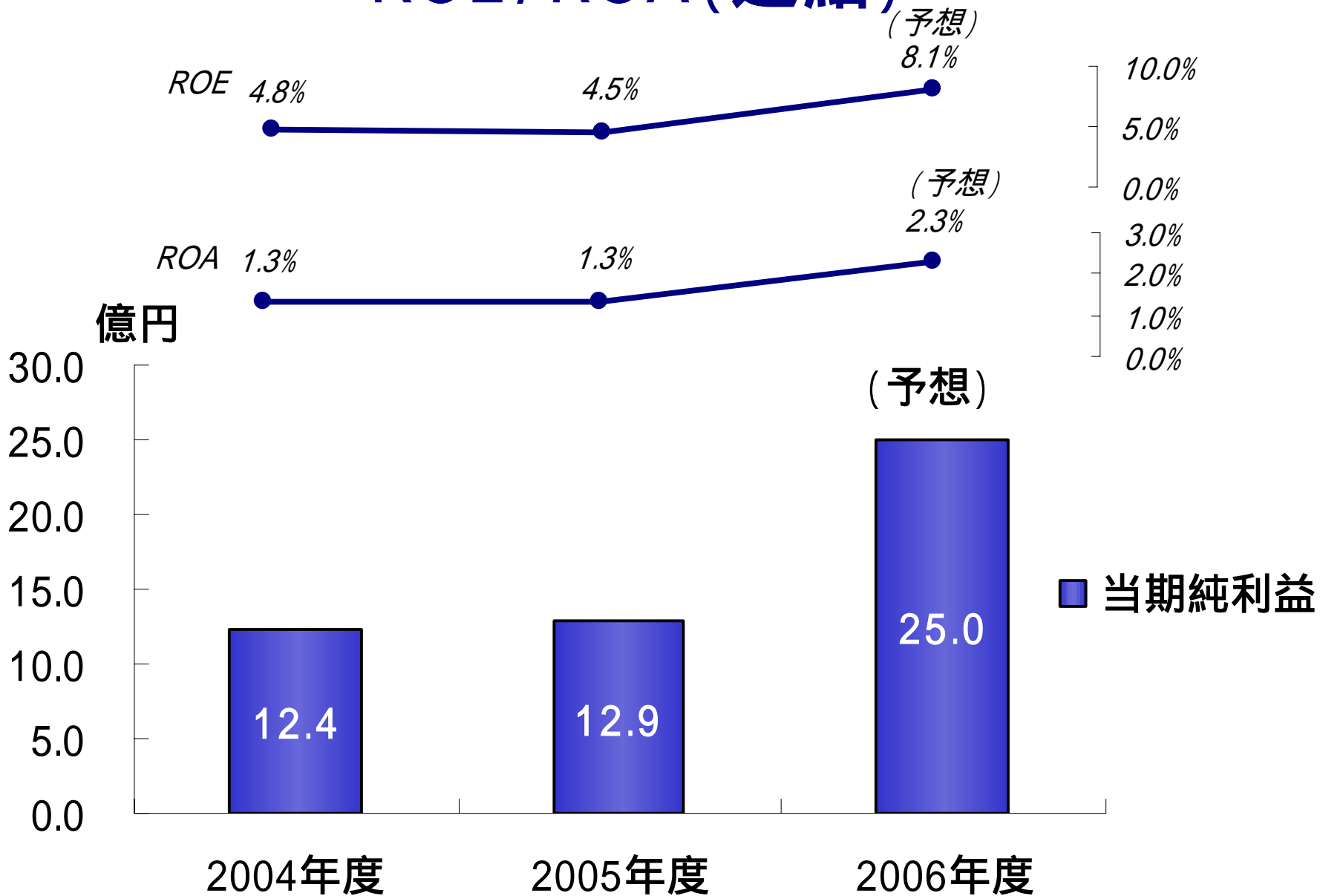
キャッシュ・フロー計算書

単位:億円

	2005年度 上期	2005年度	2006年度 上期	前年同期比
営業活動による キャッシュ・フロー	1	21	41	42
投資活動による キャッシュ・フロー	2	22	13	11
財務活動による キャッシュ・フロー	2	37	6	8
現金及び現金同等物の 増減額	1	37	23	24
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	81	120	143	62

- 業績の大幅改善により、営業活動によるキャッシュ・フローが改善された

ROE/ROA (連結)



通期の見通し

(単位:百万円)

	2006年3月期		2007年3月期上期		2007年3月期(予想)	
	金額	売上高比 (%)	金額	売上高比 (%)	金額	売上高比 (%)
売上高	93,291	100.0	46,905	100.0%	100,000	100.0%
営業利益	2,012	2.2	2,194	4.7%	5,000	5.0%
経常利益	1,913	2.1	2,252	4.8%	5,000	5.0%
当期(中間)純利益	1,288	1.4	1,189	2.5%	2,500	2.5%

- 期初の予想通り売上高1,000億円、経常利益50億円を見込む
- 計画達成に向けて、大型装置の売上を確実に計上する

2006年度の上期総括と 重点施策の実施状況

2006.11.27

JEOL 日本電子株式会社
代表取締役社長兼COO **原田 嘉晏**

中期経営計画

「Focus Plan 2006」の達成に向けて

< 事業目標 >

【連結売上高】 ミニマム **1,000** 億円

【連結経常利益】 ミニマム **50** 億円

2006年度上期総括

(単位:百万円)

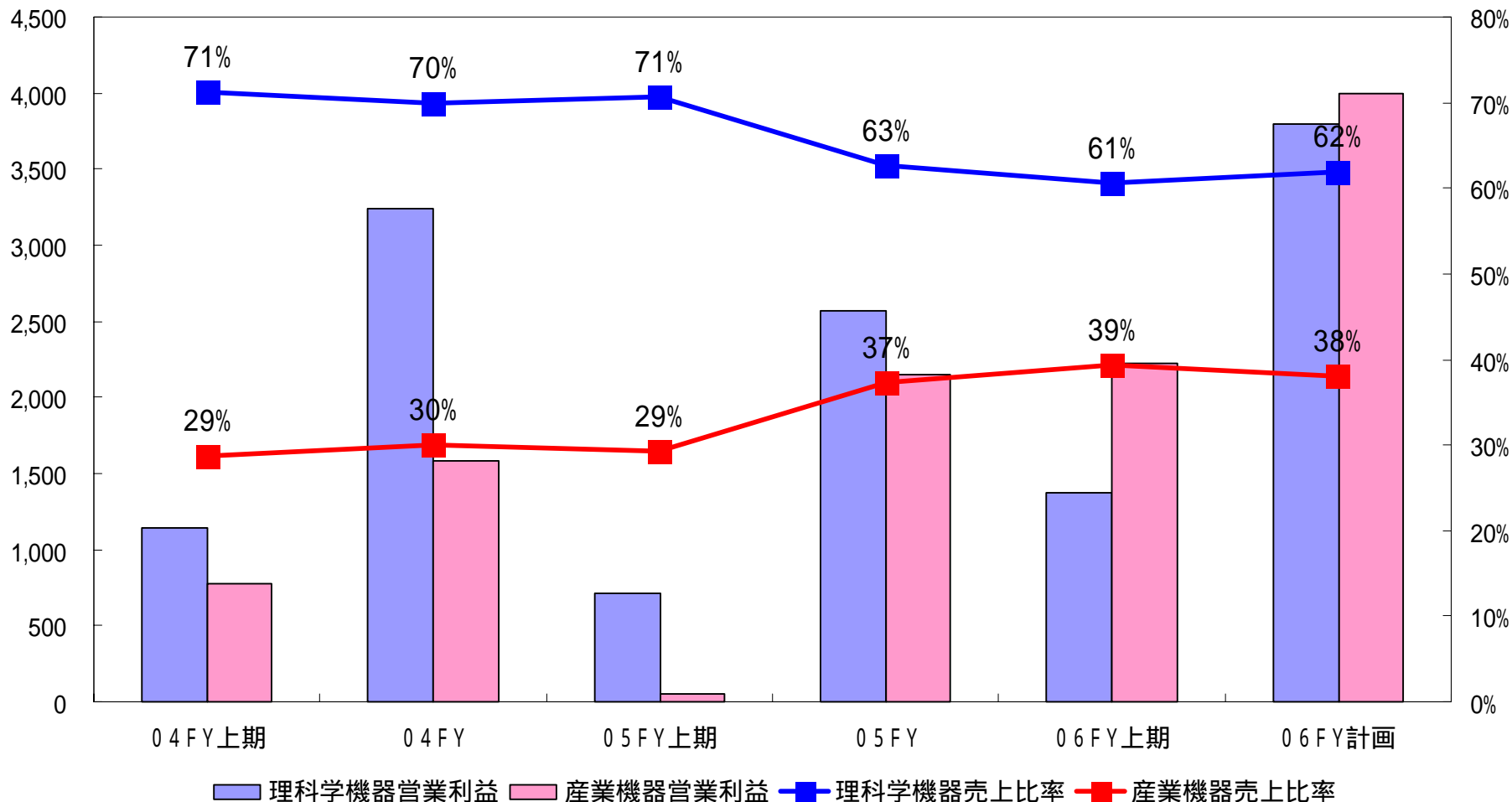
	05FY上期	06FY上期	増減額	増減率
受注高	48,786	52,237	3,451	7.1%
売上高	39,400	46,905	7,505	19.1%
営業利益	549	2,194	2,743	-
経常利益	484	2,252	2,737	-
中間純利益	496	1,189	1,685	-

受注高・売上高・営業利益・経常利益・中間純利益とも、2000年度より
公表を開始した中間連結決算としては過去最高

2006年度上期総括

● 産業機器 (I-Core) の強化

(単位:百万円)



2006年度上期総括

- 配当の実施状況

中間配当を1株当たり1円増配(2.5円 3.5円)

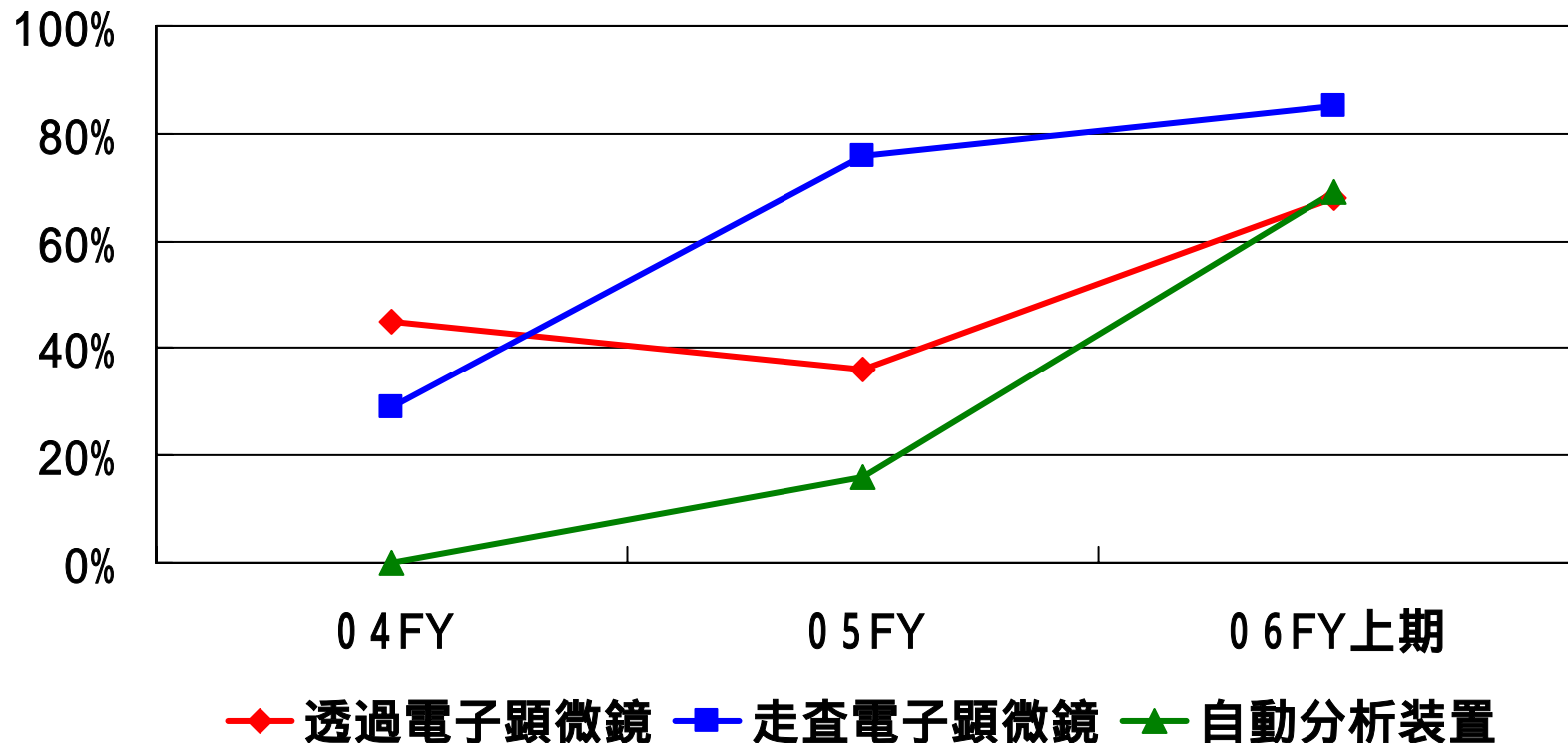
期末配当も1株当たり1円増配予定(2.5円 3.5円)

通期で2円増配を予定(5円 7円)

重点施策の実施状況

- 量販品の山形への生産移管による原価削減
YMCC天童工場でのさらなる生産拡大

総生産台数に占めるYMCCの生産比率



北京創成技術有限公司 (BJCC) 新工場建設

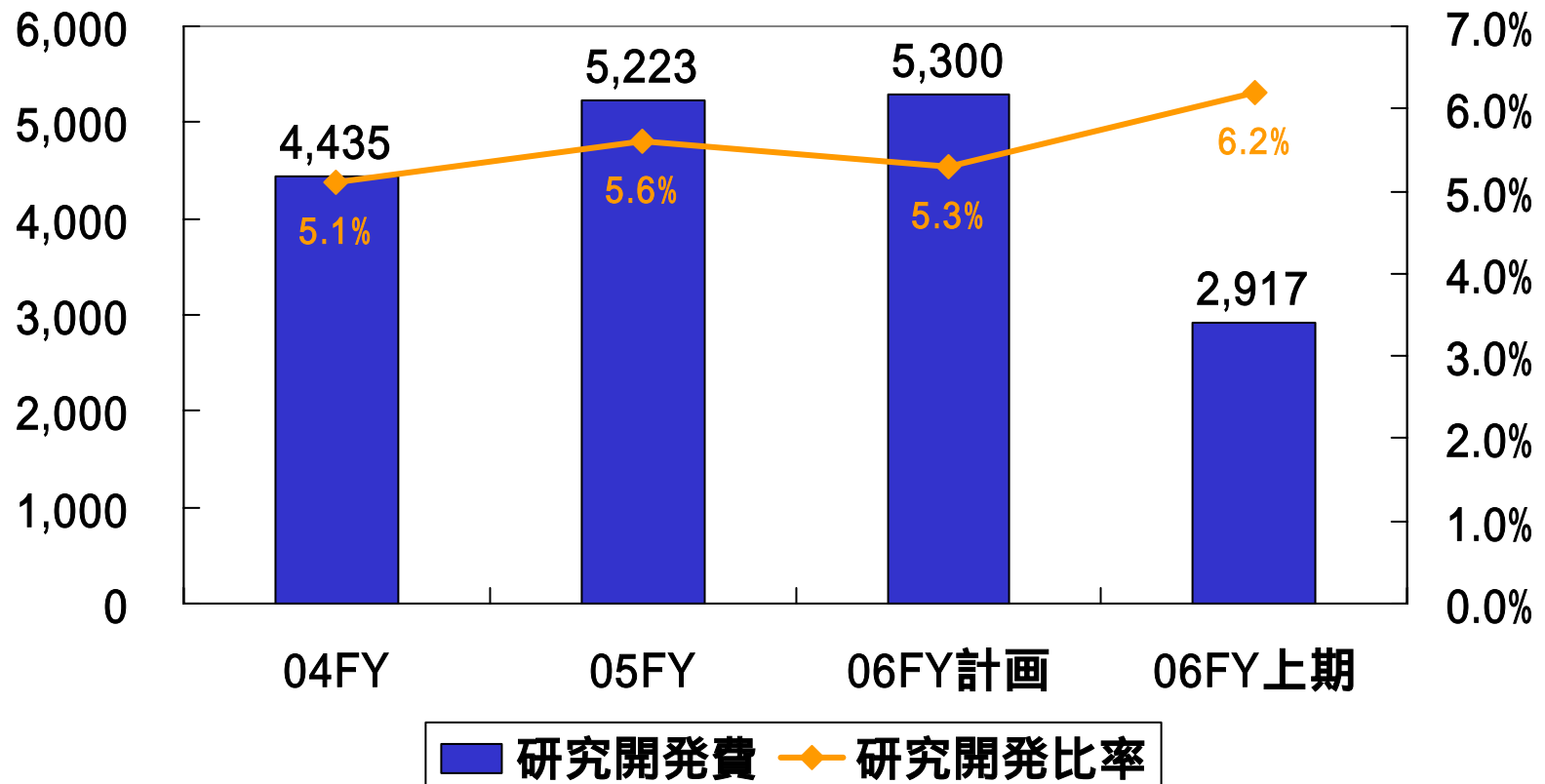
- 北京経済技術開発区に
新工場を建設・移転
- 土地10,000m²
建物15,000m²
- 2006年11月8日鋤入式
- 竣工は2007年6月目標
- 機械部品加工の生産を
増加 - 原価改善へ
- 中国市場向け環境関連
製品や医用機器などの
生産に取り組む



完成予想図

重点施策の実施状況

- 研究開発費への積極的な投資
- 売上高研究開発比率上期実績は6.2%



重点施策の実施状況

- 各事業の動向

電子顕微鏡事業

半導体機器事業

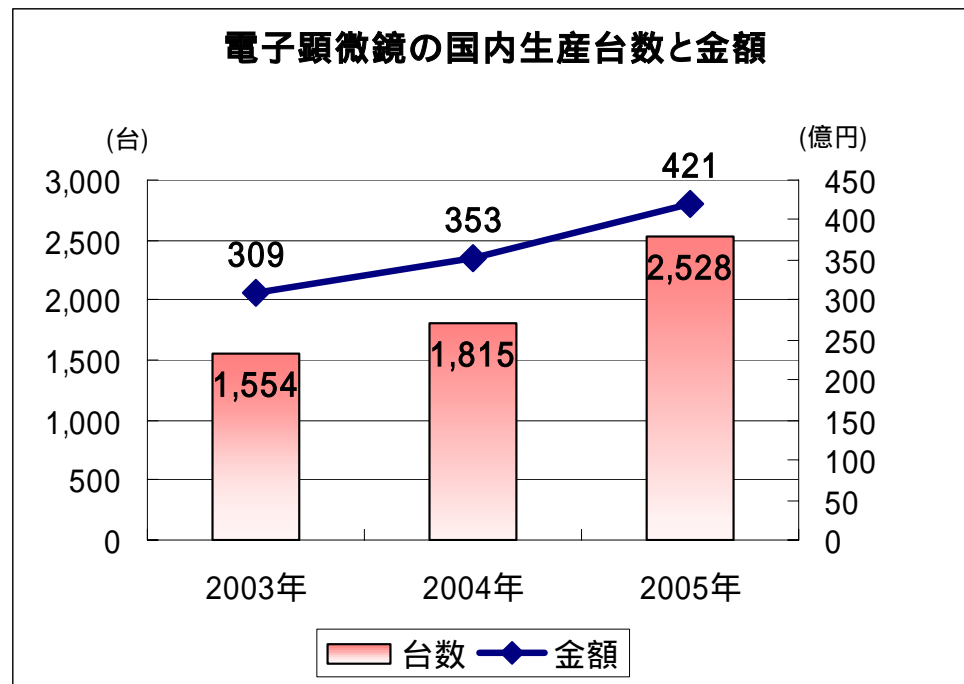
医用機器事業

その他の事業(環境関連)

・蛍光X線分析装置

電子顕微鏡事業

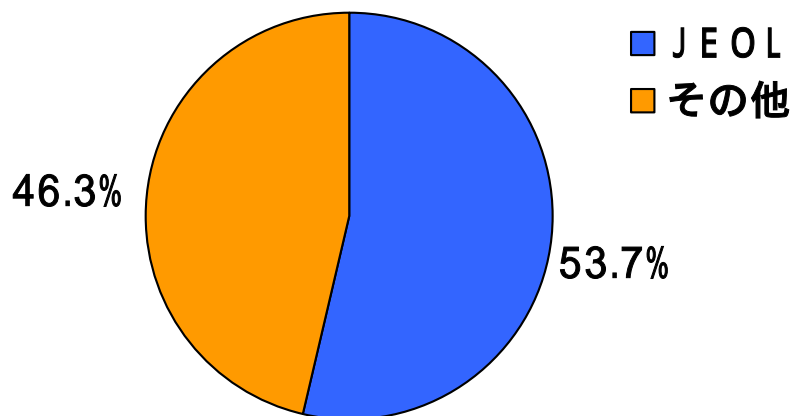
- 市場は拡大傾向
- 従来の研究開発型用途から材料開発、医学、生物学、品質管理、半導体分野、光学顕微鏡市場など様々な分野での需要拡大
- 受注、売上とも好調
- マーケットシェア50%の堅持



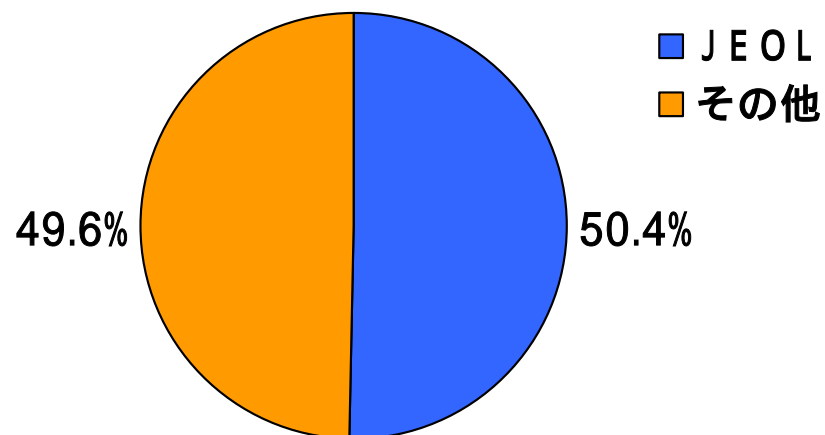
出典：経済産業省 機械統計 より

マーケットシェア

透過電子顕微鏡



走査電子顕微鏡



電子顕微鏡事業4つのトレンド<対応策>

1.High End

モノコ、Csコレクタ、国家プロジェクト、
産学官連携、技術フォーラム、
w-wモデル体制の構築

4.データマネジメント

- データ統合解析、
- 画像処理、バーチャルラボ
- 3Dトモグラフィ

電子顕微鏡事業

- モノづくり、Core、販売体制の強化
- キャリースコープ

2.汎用量販品

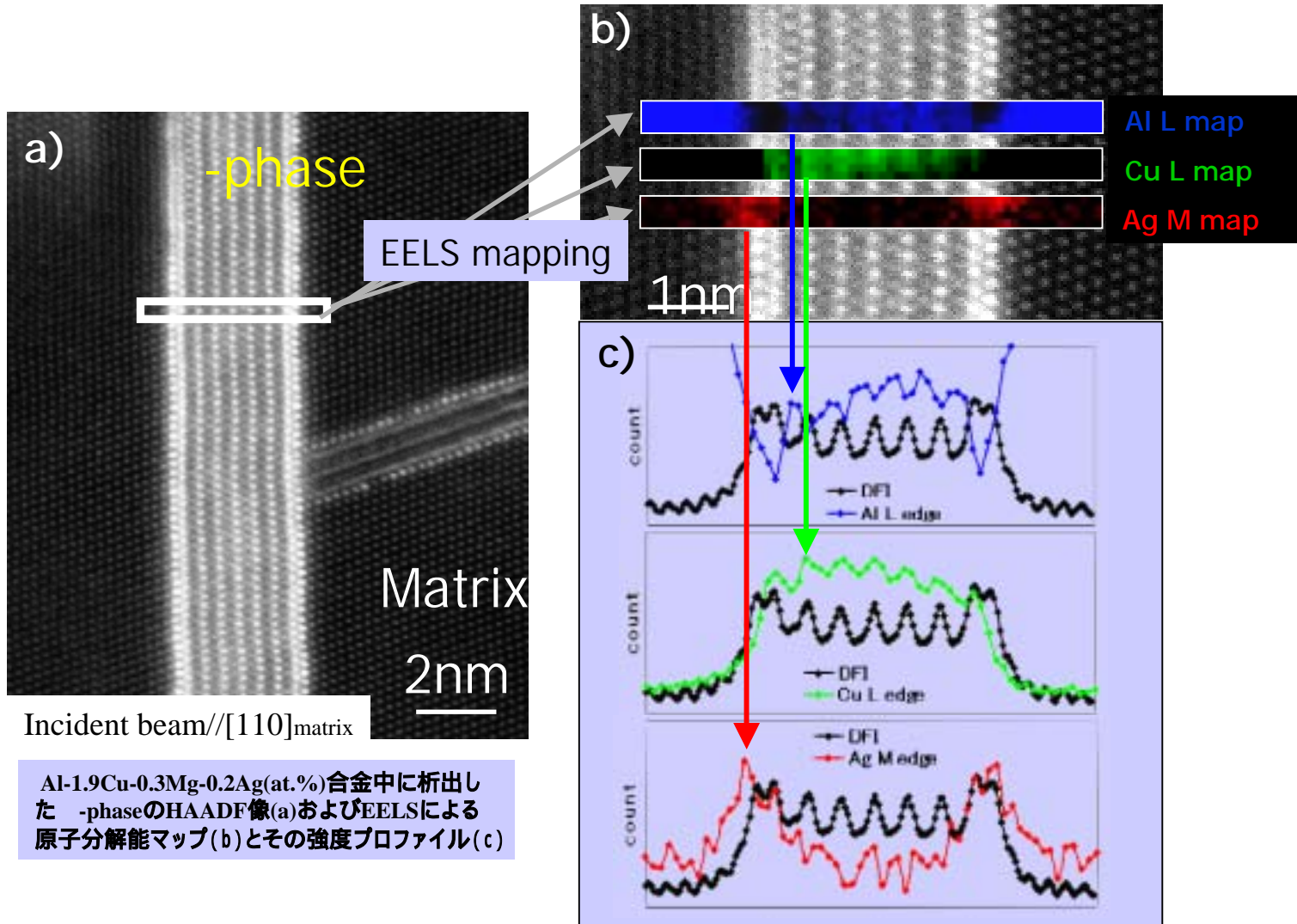
多様なニーズに対応
カスタマイズ/オールインワン

3.試料作製

- マーケティング、モノづくりの強化
- コンサルティング、人材派遣、
依頼分析の事業化
- クロスセクションポリッシャ
- イオンスライサ

周辺技術/前・後処理
トータルソリューション

ハイエンド機(世界最高性能)から汎用機・可搬形まで全てのユーザーニーズに対応



Al-1.9Cu-0.3Mg-0.2Ag(at.%)合金中に析出した γ -phaseのHAADF像(a)およびEELSによる原子分解能マップ(b)とその強度プロファイル(c)

半導体機器事業

- マスク用描画装置、直接描画装置、半導体不良解析装置 (Beam Tracer) の拡販
- マスク用描画装置のシェア50%確保と利益の追求
- 増産体制への整備 — クリーンルームの増設



クリーンルーム増設

- 昭島構内、総面積約6,000m²(1～4階)
マスク用描画装置、直接描画装置、半導体向け
電子顕微鏡などの生産確保に備える
- 工事費用：約20億円
- 完成予定：2007年8月

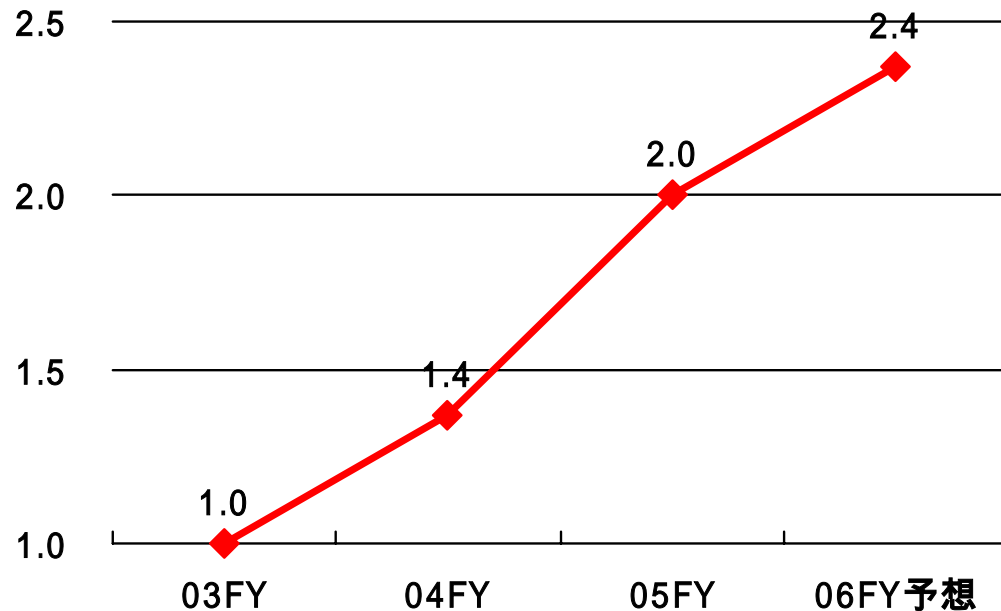


上：完成予想図

医用機器事業



- 超微量化測光技術(試薬他社比1/3~1/5)で売上・シェアを伸ばす
- 国内販売、OEMによる輸出とも好調
- 新ビジネスモデルの構築
 - ・試薬・消耗品、サービスビジネスの拡大
 - ・アライアンスの強化
 - ・YMCCをはじめとする東北地区への生産移管による原価改善



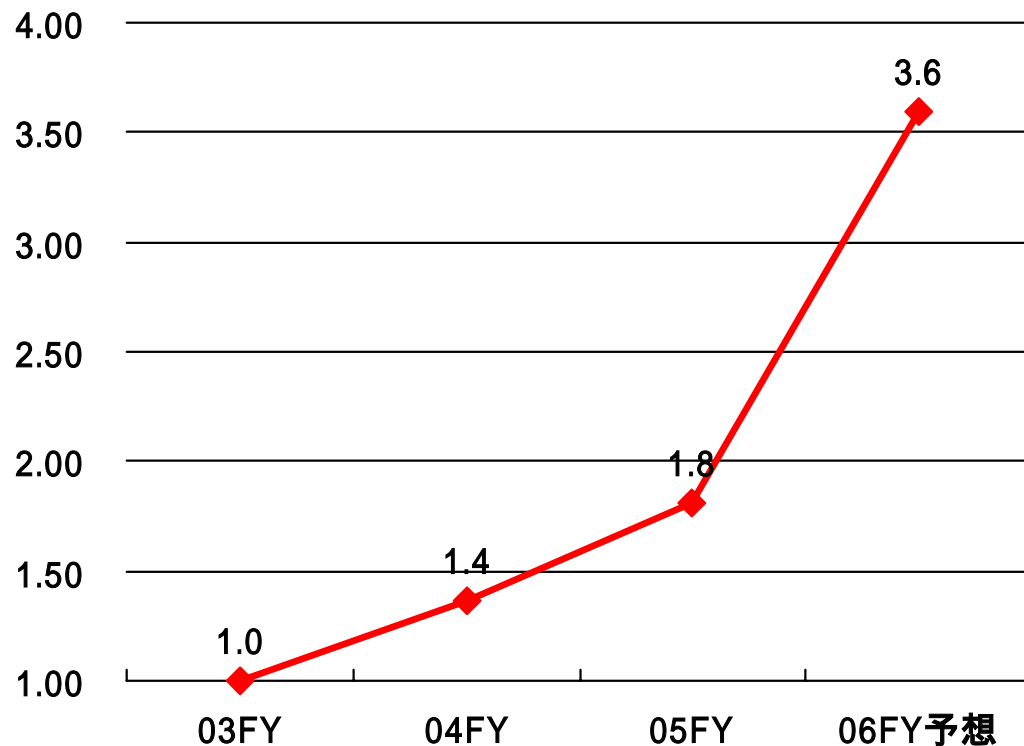
BP1000最終年度である03FY売上台数を「1」としたFP2006の売上実績および計画

その他の事業(環境関連)

<環境関連装置>

蛍光X線分析装置

- 06年7月
欧州RoHS指令施行
- 07年3月
中国RoHS指令施行予定



BP1000最終年度である03FY売上台数を「1」としたFP2006の売上実績および計画

重点施策の実施状況

経営体質のスリム化と内部統制の強化

- 6月29日開催の定時株主総会終結後の取締役会決議をもって執行役員制度を導入
(取締役の員数を定款上20名以内から8名以内に)
- 業務監理室の設置
- CSR委員会の設置
- 前顧問弁護士を社外監査役に迎え、監査体制を強化
- 長島・大野・常松弁護士事務所、顧問:長島先生を弊社顧問弁護士に迎え、コンプライアンスを強化

キャパシタ事業

- 新型大容量キャパシタ『プレムリス (Premlis)』の開発
- 非対称型キャパシタ
- 高電圧化・エネルギー密度の向上
- 展示会へ出展

2006年10月 CEATEC JAPAN 2006

第22回国際電気自動車シンポジウム (EVS-22)

- 4種類のサンプル配布を開始し、様々な分野で評価中



第16回国際顕微鏡学会議 (IMC16) およびYMCC天童工場への行幸啓

- 2006年9月6日 天皇皇后両陛下が当社ブースをご視察
- 2006年9月4日 皇太子殿下が当社子会社のYMCC天童工場をご視察



左:IMC16における当社ブース

上:YMCC天童工場外観

資料取扱上のご注意

本プレゼンテーション資料及び弊社代表者が口頭にて提供する情報には、現時点で把握可能な情報から判断した、仮定及び所信に基づく記述が含まれています。

今後、経済情勢をはじめ半導体市況や研究開発投資など、弊社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が、異なったものとなる可能性が否定できないことをご承知おき願います。

日本電子株式会社は、本プレゼンテーションに記載された内容を更新する義務を負っておりません。